



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	兵庫県豊岡市竹野地域「地域プロデューサー事業」での活動
Author(s)	臼井, 冬彦
Citation	CATS 叢書, 11, 149-155
Issue Date	2017-03-07
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66691
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS11_21.pdf



兵庫県豊岡市竹野地域「地域プロデューサー事業」での活動

白井 冬彦

北海道大学観光学高等研究センター 客員教授

はじめに

2015年4月から、兵庫県豊岡市では、市内の各地域の地域資源を活かし、住民が自主的・自立的に仕組みを構築し、地域とともに、地域課題の解決策の取り組みを行うために、国の地域再生戦略交付金を活用し、地域振興の専門的知識を有する者や団体と契約して、「地域プロデューサー」事業を行っている。

この制度のもと、6か所において民間団体もしくは民間人を地域プロデューサーとして採用し様々な活動を開始している。対象となっている地域は、現在の豊岡市を形成する、旧豊岡市、城崎、出石、日高、但東、竹野（2005年合併前の1市5町）の6地域である。小職は、この竹野地域における「地域プロデューサー」を拝命し、2年目の活動の終盤に入ったところである。本稿では、この竹野地域での地域プロデューサー事業の趣旨・活動内容、そこから見える地域活動の課題などを簡潔に報告することで、地域での活動に邁進されておられる方への参考としたい。

1. 「地域プロデューサー事業」とは¹⁾

従来、行政が主導する形で行われてきた様々な地域活性化活動の反省も踏まえ、民間団体や民間人の経験・知恵・手法を導入することで、新たな活動を展開し、地域の課題解決を行うものである。各地域における具体的な目標、目的、契約相手、その活動内容・手法については、地域の行政担当者と地域プロデューサーとの協議に任せられており、統一したものではない。契約は原則1年契約で3年間の目安での事業となっている。

活動内容は各地域で異なるが、全体の予算執行、年度中間報告・発表、年度の報告・発表は、行政関係者、議会関係者、住民に対して公開する形で、全体運営を豊岡市役所が担っている。

2. 豊岡市並びに竹野地域

豊岡市は、兵庫県北部（但馬地域）に位置し、兵庫県北部の中心都市であり、兵庫県で最も面積の大きい都市である。日本で最後の野生コウノトリの生息地として知られ、市内

には城崎温泉、重要伝統的建造物群保存地区の出石、竹野浜などの海水浴場、神鍋高原のキャンプ場・スキー場がある。日本海側気候であり、豪雪地帯でもある。

2005年4月に、旧豊岡市と、城崎郡城崎町、竹野町、日高町、出石郡出石町、但東町が合併し、現在の豊岡市が発足、人口は2010年ベースで85,607人である。



たけの観光協会 HP からダウンロード（参照 2017-01-15）

竹野地域は関西の人には、「竹野浜」の名称で海水浴場として知られる地域である。また、山陰海岸ジオパークの一角をなしており、近年では、ダイビング、カヌーなどのマリンスポーツの拠点ともなっている。古くは、猫崎半島が風待ちの岬として、北前船の寄港地としての役割も果たした町である。人口は約5,000人。

3. 活動内容

(1) 竹野地域「地域プロデューサー事業」契約内容

小職の場合、住居を構える大阪市内からの移動を要するため、毎月、一定の回数、ならびに一定の日数を竹野地域での活動に充てるという枠組みをもとに活動をしている。これをもとに、交通費、宿泊費並びに日当を含めて豊岡市との間の年間委託契約を結んでいる。契約前には、竹野地域を訪れ、一種の「お見合い」を経ている。地域の関係者へのヒアリング、さらには地域の振興局の関係者との協議をもとに、地域の課題の理解だけではなく、地域振興・活性化に関する基本的な考え方、アプローチの方法などについて議論を行ない、大まかな活動内容・手法を取りまとめたうえでの契約となった。

(2) 竹野地域「地域プロデューサー事業」の基本的な考え方：「地域活動の主役は地域住民」

一般的には、プロデューサーとは、種々の活動の裏方であるだけではなく、実質的な活動のオーナーであり、その結果に対する責任も負うべきものである。ところが、地域プロデューサーはあくまでよそ者であり、本来地域での活動の主役とはなり得ない。その意味で、小職の立場は、あくまで「コーディネーター」であり、「ファシリテーター」であるべきだという立場である。この基本的な立場については、キックオフにあたる住民集会や行政、議会関係者、住民との会合の場でも、最初に宣言している。

(3) 3つの主な活動内容

行政関係者ならびに住民との話し合いをもとに、地域プロデューサーの活動領域を次の3点に焦点を当てることで合意し、活動を開始した。

- ① 地域の魅力・磁力（コト・モノ）の確認・整理
- ② 仕事・生業・生活の手段の創造
- ③ 寝泊まりする場所、住む場所の創造

以下、この2年弱の間の具体的活動内容を説明する。

① 地域の魅力・磁力（コト・モノ）の確認・整理

地域活性化の活動の主役は住民であり、その活動の方向性を決めていくには、住民がその地域性と歴史性を含め、地域をよく知ることだと考える。この趣旨のもと、地域住民との協働により、地域資源の整理とともに、地域を形成してきた生活文化の歴史を整理している。

生物季節または生物季節学と呼ばれる「フェノロジー」の概念をもとに、地域の自然・文化のあらましを、現代だけではなく過去にさかのぼる形で、フェノロジーカレンダーの作成作業を行っている。

この作業において、情報を偏りなく収集するために、ヒアリング時には下記の地域資源ヒアリングシートを使用している。

季節	自然資源			文化資源・ライフスタイル							他
	景観	動植物	他	歴史	施設等	食	遊び	祭り	衣装	他	
春											
夏											
秋											
冬											

地域資源ヒアリングシート

過去2年弱で、3つの地域でヒアリング活動、聞き書き、報告書のまとめという作業を行った。ヒアリング、ワークショップは、おおよそ3時間×5～6回行い、延べ15～20時間

ほどを地域住民とのやり取りに費やした。

これらの活動の結果、3つの地区で、その地域資源情報の分類整理とともに、その解説を含めた、おおよそ30ページ前後の冊子として発行することができた。隔絶された漁村として形成された「田久日地区」、限界集落に近づいてしまっている農業集落の「二連原地区」（現在7世帯）、高地にありながら徒歩での交通の結節点として機能し、様々な生業の歴史を持つ「三原地区」という個性豊かな3つの地域の記録である。地域での発表も行い、地元の方々に大変喜んでいただけた。

② 仕事・生業・生活の手段の創造

この活動としては、大きく分類して三つの活動を行っている。一つは、ビジネスセミナーの開催、二つめは、存続の危機に陥った漁協の経営改善活動、三つめは、現在竹野地域に入っている地域おこし協力隊メンバー4人のメンター・アドバイザーとしての活動である。

ア. ビジネスセミナー

地域の住民を対象に、地域ならではの自律的なビジネスを模索するためのビジネスセミナーを継続して開催している。各々2時間×4回、計8時間を1コースとして、これまでに初級編を4回)、中級編を1回実施している。初級編の第4回目までに延べ58人、中級編では18人の方々が参加した。初級編は座学中心で、地域ビジネスの特徴（季節性や事業規模の考え方）、マーケティング、損益管理など、ビジネスを行う上での基礎知識を学ぶ。その後の中級編では、各自が考えているアイデア、地域への思いを語り合い、1チーム3〜4人の構成で一つのアイデアを取り上げ、それをビジネスプランとして発表する形となっている。各チームは、セミナー開催時だけでなく、各々の予定を調整しながら、最終プランのまとめを要求される。

イ. 漁協（竹野支所）存続活動

魚価の低迷と漁獲セリ高の減少のため、経営環境が厳しくなる中で、2016年1月に但馬漁協竹野支所の存続問題が表出した。港町、漁師町の性格も持つ竹野において、漁協の消滅は、そのライフスタイルへの影響、地域の魅力の維持という点で大きなインパクトのある問題であった。このため、地元自治会、商工会、観光協会などの主要メンバーに行政の関係者を加え、但馬漁協竹野支所の経営改善協議会を発足させ、経営改善計画の作成とともに、但馬漁協本所との折衝を行い、経営改善計画の実行に取り組んだ。

人件費を含めた経費削減の活動だけではなく、新たに週1回の地域住民を対象にした魚の直販活動、地域魚介資源を活かした特産品の開発とともに、観光協会、観光事業者（民宿など）に、その販売・消費をお願いすることなどにより、竹野漁協の粗利を改善する活動を定着させた。これらの活動に加え、魚介類を利用した特産品の開発、魚のネット販売、魚のオーナー制度などの企画も進行しつつある。

ウ．地域おこし協力隊²⁾へのメンター・アドバイザーの活動

2016 年 12 月現在、竹野地区には 4 名の地域おこし協力隊が居住している。3 年目が 1 人、2 年目が 2 人、1 年目が 1 人の計 4 名である。彼らが、3 年の任期継続後も竹野地域で生計を成り立たせていくことを目指して、前述のビジネスセミナーでの指導以外にも、グループ指導、個人指導を行っている。

現時点では、1 人はゲストハウス・バーの開業、1 人は NPO を設立し、行政との協力のもとに、空き家調査、管理、移住相談、地域情報・移住関連情報の WEB の作成・運営、1 人は漁師の活動の延長として、魚介類の特産品関連事業、魚のネット販売などを中心にした起業の方向に向かっている。

また、地域おこし協力隊のメンバーではないのだが、すでに竹野地区に移住してきている若者に対する生業づくりの個人相談・指導も、ビジネスセミナーでの指導以外に行っている。

③ 寝泊まりする場所、住む場所の創造

竹野浜地区には、個人事業主による民宿が 60 軒ほど存在する。外部からの来訪者のための宿泊施設の基本となっている。これ以外には、中規模の観光ホテルが 1 軒、国民休暇村が 1 軒存在している。夏の海水浴客と冬のカニのシーズンに観光客は集中する。厳しい季節性のため、民間の宿泊施設の経営は決して容易ではない。民宿経営においても高齢化が進み、一部経営の持続性が問題となっている。

また、少子高齢化の進展に伴い、空き家の増大が顕著になってきているが、それらの施設の再利用については、なかなか具体的な進展を見ない状況である。

この状況の中で、空き家の再利用のためには、本当に使用可能な（マイナーな修復物件含む）空き家がどれくらいあるのか、所有者の本当の意向（売買、賃貸の意思）の確認、管理の方法など、具体的に詰めなければならない問題が多くある。これに対し、2016 年 10 月に地域おこし協力隊のメンバーの 1 人が中心となり、NPO 法人「たけのかぞく」が設立され、これらの問題に取り組んでいくこととなった。具体的な活動はこれからであるが、行政関係者の協力の下、一歩ずつ進んでいくことを期待したい。

また、もう 1 人の協力隊メンバーによって、空き家を利用したゲストハウス並びにバーの開業準備も進められており、泊食分離を前提にした新しい宿泊施設と集いの場を提供できるようにすることで、新しいタイプの集客と地域の若者の交流場所としての実験的な取り組みとして期待されている。

4. 反省・学びと今後の予定

2年弱のこれまでの活動を振り返って反省を試みるとともに、今後の活動について触れてみたい。

(1) 反省と学び

① 地域の時間の流れ

地域での活動では、成果にたどり着くまでに相当の時間がかかるという点を改めて実感している。地域住民が、地域の課題の理解とともに危機感を共有しながらも、具体的な前向きな行動に移るには、何かしらのきっかけ、実際の動きの仕掛け、継続的な活動の仕組みが必要となることを痛感している。地域には地域の時間の流れがある。地道な活動の積み重ねが必要である。その意味では、1年契約ではあるが、3年間のプロジェクトとしてこの事業が考えられていることは重要な点である。

② よそ者への期待・応援

私なりに少しでもお役に立てているとするならば、それには、これらの活動に協力してもらっている地域おこし協力隊のメンバーの存在が極めて大きい。彼らは、いわゆる「よそ者」であるとともに、「若者」である。都会を離れ、移住を前提に竹野に来てくれた協力隊の若者の活動を支援したいという地域のシニアとの関係が大きな意味を持っている。

20代終盤から30代はじめという、竹野地域では少なくなった若者が、各々のテーマのもとに、住民たちのところに真剣に相談事や話を持ってきてくれることことを喜ぶとともに、一緒に様々な活動に参加することが、住民主導の地域での活性化活動に大きく役立っているからである。

③ 黒子（猿回し）としての行政関係者の役割

地域プロデューサー事業の予算執行、地域住民を対象にした様々な活動の通知・招集、説明・議論、各種団体への連絡・根回しなど、行政関係者の役割も極めて大きい。竹野の場合、豊岡市竹野振興局（旧竹野町役場）の関係者がその役割を担っている。契約前の2回にわたる真摯な議論による方向性、アプローチの手法などの確認を最初に行えたことが大きな意味を持っていると考えている。

行政関係者と地域プロデューサーとの関係は、「猿回し」と「猿」の関係だと考えている。地域で時間をかけて取り組むことで結果を生み出していくには、プロとしての猿回しと、その手先として具体的な課題に取り組んでいくプロとしての猿の両方の役割分担が必要だと感じている。

(2) 今後の予定

豊岡市の本事業は、2018年3月までが目安となっている。その期間内にどこまでの成果が上げられるか、または、その後の成果のための基盤づくり、風土づくりを進められるか

である。幸い、協力隊のメンバーの頑張りもあり、新しいことにトライする風土、議論する機運、またそれらを楽しむ雰囲気が少しずつ生まれてきていると感じている。

地域プロデューサーとして、私個人の思いや狙いもあるのだが、それよりも地域住民の思いや願いを真摯に受け止めながら、猿回し役の行政関係者との協議のもとに、これまでの活動の継続だけではなく、新しいテーマについても取り組んでいこうと考えている³⁾。

注

- 1) 各地域の地域プロデューサー活動については、豊岡市が発表している下記の URL を参照。
http://www.city.toyooka.lg.jp/www/contents/1435726022946/files/1_2.pdf#search=%27%E8%B1%8A%E5%B2%A1%E5%B8%82%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%87%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B5%E3%83%BC%E4%BA%8B%E6%A5%AD%27（参照 2017-01-15）
- 2) 地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受入れ、地域協力活動を行ってもらい、定住・定着を図る趣旨のもと、平成 21 年度から実施されている制度である。制度の概要については、下記総務省の URL を参照。http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyousei08_03000066.html（参照 2017-01-15）
- 3) 豊岡市とは、竹野地域の地域プロデューサー事業がきっかけに、それ以外に二つの活動を行っている。一つは、2016 年 6 月に発足した豊岡市の DMO である一般社団法人「豊岡観光イノベーション」、通称 TTI（Toyooka Tourism Innovation）の経営アドバイザーの活動であり、もう一つは豊岡市が運営している官民の若手（30 代が中心）を対象にしたリーダー養成プログラム「稽古堂塾」の講座の講師役である。15 回のシリーズの学びの場において、2015 年度は 2 回、2016 年度は 8 回、登壇させていただいている。